サイコパシー特性と記憶の関連について

尾里　莉望
（服部　陽介ゼミ）

序　論

サイコパスとは、共感能力や罪悪感の欠如、自己中心性や表面的な魅力や衝動性などを併せ持つ人のことであり、健常者や精神病患者との区別をするために臨床場面で用いられてきたのである（宮田・湯川，2014）。また、そのサイコパスが持つ特徴をサイコパシー特性といい、測定指標としてサイコパシー特性の自己記入式尺度の一次性、二次性サイコパシー尺度がある（宮田・湯川，2014）。一次性サイコパシー、別名 PP とは、共感性や罪悪感の欠如また他者操作といった感情や対人関係における特徴を示しているのである（宮田・湯川，2014）。二次性サイコパシー、別名 SP とは、衝動性や行動の非制御といった行動における特徴を示しているのである（宮田・湯川，2014）。自伝的記憶、別名 AM とは伝統的に自己に関する記憶と定義されており、個人が重要な出来事をどのように思い出すかは自分自身の性格や気質と厳密かつ相互的に関連し、またパーソナリティに影響を与えているのである（Tiziana et al，2019）。例えば、現在の自伝的記憶のモデルを拡張、ライフストーリースキーマの概念を導入し、構成には感情的または動機的な負担に基づいて生涯にわたって符号化や検索されたりするスパンのことである（Tiziana et al，2019）。このような観点から、自伝的記憶は個人が自分のライフストーリーを構築、意味づけ、経験し、理由付けする様式であると考えられているのである（Tiziana et al，2019）。このような知見をもとに、サイコパシー特性と自伝的記憶の想起特性との関連を検討した先行研究がある。内容としては、質問紙を作成し学校という言葉から連想される感情的にポジティブ、ネガティブ、中性の出来事についてそれぞれ想起を求めた後、各出来事に対し MCQ 評定、PSPS の評定を行った研究である（宮田・湯川，2014）。結果としては、時間情報と感覚的経験、全体的印象の 3 点に PP 特性との関連が見られ、PP 特性が高いと全体的印象得点が低かったのである（宮田・湯川，2014）。また、PP 特性が高いとポジティブな過去の経験の想起に及ぼすポジティブ感情の影響が弱くなることが示唆されたのである（宮田・湯川，2014）。さらに、PP と SP のどちらも視覚的な鮮明さや詳細さを表す明確性において関連が見られたことからサイコパシー特性が高いと出来事を鮮明に想起しないことが示されたのである（宮田・湯川，2014）。このようなサイコパシー特性と自伝的記憶との関連を検討した先行研究は少ない。したがって、本調査では、サイコパシー特性が自伝的記憶にどんな影響を与えているかについて検討することを目的とした。具体的には、先行研究から 3 つの仮説を立て Web 調査を行い、調査結果は HAD のソフトを用いて分析を行った。

次に、サイコパス的な性格を持つ人は、最初に合った人を被害者となりそうな人か、すなわち潜在的な資源があるか成功しているかまたは感情的に弱くなっているかといった脆弱性を見極めていることが示唆されているのである（Wilson et al，2008）。このような知見をもとに、サイコパス的性格と他者の脆弱性や自己主張の評価との関係を明らかにすることを検討した先行研究がある（Wilson et al，2008）。内容としては、笑顔の表情が 4 名、悲しげな表情が 4 名、気晴らしが 6 名の計 14 名で構成されており 1 枚目のスライドショーに記憶してもらう 8 名分を最初の 4 分間流し、次に 2 枚目のスライドショーに全て中性的な表情のモデルを無作為な順で提示し行った研究である（Wilson et al，2008）。結果としては、サイコパシーと認識率の相関は不幸で成功しないキャラクターではわずかに有意となったことからサイコパス特性の高い人は不幸で成功しないキャラクターを有益な情報として特に記憶していること

が示されたのである（Wilson et al, 2008）。したがって、本実験では、脆弱性とサイコパシー特性との関連について検討することを目的とした。具体的には、先行研究から仮説を立てWeb調査を行い、実験結果はHADのソフトを用いて分析を行った。また、サイコパス関連の先行研究は幾つもあるが、サイコパシー特性と自伝的記憶との関連性とサイコパス的性格といったパーソナリティな部分を比較検討した先行研究は少ないことから本調査と本実験の結果から比較検討を行った。

研究１（本調査）

サイコパスの特徴と自伝的記憶に関する先行研究より、行動面の特徴を表す二次性サイコパシーと回想的想起との関連があることから二次性サイコパシーが高いと出来事を何度も想起し、意味を見出す傾向が低いといった経験から学ぶことが困難であることが示唆されているのである（宮田・湯川，2014）。自伝的記憶の中でも自己を象徴するような出来事に関する記憶を扱った研究で、出来事から意味を見出す傾向は自己制御や適応性と関連することが報告されているため、SP特性によって表れる行動や適応における特徴の背景には過去の経験から学ぶことの困難性が示唆されているのである（宮田・湯川，2014）。また、サイコパス特徴には捕食や操作の目的のために他の人々の有用性や脆弱性が関連していることが報告されているのである（Wilson et al, 2008）。その結果、サイコパスは他人の社会的情報を記憶するよう要求された場合、潜在的な被害者の脆弱性を検出するのに役立つ有用なすべての情報をほぼ完璧に記憶していたのである（Wilson et al, 2008）。他にも、サイコパス受刑者は感情的な文脈の詳細に対する記憶が悪いことが示されているため感情を処理する能力が欠けているのではなく、感情の経験を文脈的な手がかりに結びつけることが困難であるといったように感情の記憶に問題があることが示されているのである。（Tiziana et al, 2019）。これらの知見をもとに本調査では、サイコパシー特性が自伝的記憶にどんな影響を与えているのかについて検討することを目的とした。具体的には、3つの仮説を立て予測した。仮説Ｉでは、PP特性よりSP特性の方が回想的想起得点とより強く正に相関すると予測した。仮説Ⅱでは、PPと記憶の明確性の観点から有意な情報となる対象者の弱みをとくに記憶し意図的に利用して悪ふざけをしているが、記憶の明確性の面では対象者の経歴に関しては役立たないため低いと予測した。最後に仮説Ⅲでは、SPと明確性の観点から思考を伴わない衝動的な行動であるため、記憶の保持は困難であると予測した。

方　法

調査対象者

調査対象者104名（男性47名、女性57名、平均年齢41.15歳）が調査に参加した。分析対象者は98名（男性46名、女性52名、平均年齢40.67歳）となった。調査対象者から悪ふざけをしたことがある人物を本調査とし、参加人数104名から悪ふざけをしたことがない人物と分からないと回答した人物を除いた98名に絞った。

実施日

2021年11月26日に調査を実施した。

手続き

本調査は、Googleフォーム使用し行った。調査対象者は調査者より調査への（1）参加は強制ではなく体調が悪くなった場合などを含めいつでも回答を中断できること、(2）回答は全て調査者の厳重な管理もと直ちに記号化されコンピューターにより統計的に分析されること、(3）個人情報が漏洩する恐れはないこと、(4）調査の結果を知りたい人には情報を開示すること、(5）回答終了後、確認コードをクラウドワークス上で入力してもらうこと、(6）ここで得られたデータを他の方のデータとともに集計し、体験授業への活用や研究報告行う可能性があることを伝えたうえで任意で行われた。回答時間は約20分であった。調査結果をもとに相関分析を行った。

質問紙構成

「悪ふざけ」という言葉から連想される、ネガティブな気分になった経験とポジティブな気分に

なった経験について思い出してもらった。また、出来事の種類は一般的な日々繰り返される経験ではなく空間と時間の中で追跡可能な出来事であり、かつ非常に強い感情的な影響を受け何度も考えたことがあるなど自分の人生を強く印象づける出来事でなければならないと教示しそれぞれ想起を求めた。PSPS の評定後、2 種類の出来事の想起および MCQ 評定を求めた。

(1) 日本語版 MCQ：想起した出来事の記憶の特性を測定する尺度である。明確性（その出来事の記憶全体の鮮明度は、ぼんやりしている = 1、きわめてはっきりしている = 5 など 4 項目）、回想的想起（この出来事が起こってから、そのことについて考えた回数は、まったくない =1、何度もある =5 などの 2 項目）、感情的にポジティブかネガティブ（その出来事はあなたにとってまったく楽しくなかった = 1、すごく楽しかった = 5 の 1 項目）の 3 因子からなる、全 7 項目で、いずれも 5 件法のリッカート式で回答を求めた。MCQ 得点として、「明確性」の得点が高いほど〈詳細性〉の高さを示し、「回想的想起」の得点が高いほど〈有意味性〉や〈想起頻度〉の高さを示し、「感情的にポジティブかネガティブ」の得点が高いほど〈ポジティブ〉の高さを示した。

(2) 日本語版 PSPS：大学生の一般人口におけるサイコパシー特性を測定する尺度である。感情面の特徴を表す一次性サイコパシー（PP）尺度 14 項目（「今の世の中、とがめを受けずにすめば、成功するためにどんなことをやっても正当化できる」、「他人から搾取されるような間抜けな人は、たいていそうされてちょうど良い」など）、行動面の特徴を表す二次性サイコパシー（SP）尺度 6 項目（「長い間ひとつの目標を追求できる（逆転項目）」、「自分が始めた作業でもすぐに関心を失ってしまう」など）の計 20 項目からなる「1. 全く当てはまらない」から「4. 非常に当てはまる」の 4 件法で評定させた。

結果および考察

質問項目を相関分析にかけるため記述項目を数値化し Excel へのデータ化を行った。記述で回答してもらった悪ふざけのうち、相手が自分にとって好感度の高い人物である場合、悪ふざけの結果が良い場合、悪意を感じない場合、本人も相手も楽しくなっている場合、相手場喜んでいる場合についてはポジティブな気分になった悪ふざけの経験とした。また、相手が自分にとって嫌いな人物である場合、悪ふざけの結果が最悪な状況を招いている場合、強い悪意を感じる場合、本人の気分が下がっているあるいは嫌悪感を抱いている場合、相手が失望している場合についてはネガティブな気分になった悪ふざけの経験とした。相手の特徴に関する記述については、相手の性格や家族やその人物に関する何らかの特徴または相手の性格に関する記述が 1 箇所でもある回答のみを選定した。分析には HAD17.204（清水, 2016）を使用した。

PSPS の相関

一次性サイコパシーの逆転項目も含めて 14 項目の合計得点と二次性サイコパシーの逆転項目も含めた 6 項目の合計得点を算出した。その後、合計得点を算出した一次性サイコパシーと二次性サイコパシーの 2 つの項目の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーと二次性サイコパシーの相関は r=.23（p<.05）となり、有意な正の相関が見られた（Table1）。

Table1　PSPS の相関

	一次性サイコパシー		二次性サイコパシー
一次性サイコパシー	1.00		
二次性サイコパシー	.23	*	1.00

** p < .01, * p < .05

サイコパシー特性と感情的にポジティブかネガティブかとの相関

MCQ 評定の最終項目である感情的にポジティブかネガティブか当時の気持ちを評定してもらった得点と一次性サイコパシー・二次性サイコパシー得点の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーとネガティブな気分になった悪ふざけが感情的にポジティブかネガティブかとの相関は有意ではなかった（r=.06、ns）。二次性サイコパシーとネガティブな気分になった悪ふざけが感情的にポジティブかネガティブかとの相関は有意ではなかった（r=.12、ns）。同様に、一次性サイ

コパシーとポジティブな気分になった悪ふざけが感情的にポジティブかネガティブかとの相関（r=.04、ns）、二次性サイコパシーとポジティブな気分になった悪ふざけ感情的にポジティブかネガティブかとの相関（r=.08、ns）には、有意な相関がみられなかった

以上の結果から、ネガティブな気分またポジティブな気分になった悪ふざけに関わらずポジティブやネガティブといった感情はサイコパシー特性に大きな影響を及ぼしていないと考えられる。また、Table2 にサイコパシー特性と感情的にポジティブかネガティブかとの相関の結果を示した。

仮説Ⅰの検証

回想的想起得点として、ネガティブの回想回数とこの回想的経験がもつ意味の大きさの合計得点を算出した。その後、一次性サイコパシーと算出したネガティブの回想的想起得点の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーとネガティブの回想的想起得点の間に有意な相関はみられなかった（r=−.03、ns）。また、Table3 に PP とネガティブの回想的想起得点との相関の結果を示した。

次に、回想的想起得点として、ポジティブの回想回数とこの回想的経験がもつ意味の大きさの合計得点を算出した。その後、一次性サイコパシーと算出したポジティブの回想的想起得点の相関分

Table2　サイコパシー特性と感情的にポジティブかネガティブかとの相関

	一次性サイコパシー	二次性サイコパシー
ネガティブ気分の悪ふざけ感情的にポジティブかネガティブ	.06	.12
ポジティブ気分の悪ふざけ感情的にポジティブかネガティブ	.04	.08

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$

Table3　PP とネガティブの回想的想起得点との相関

	一次性サイコパシー	ネガティブの回想的想起得点
一次性サイコパシー	1.00	
ネガティブの回想的想起	-.03	1.00

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$

Table4　PP とポジティブの回想的想起得点との相関

	一次性サイコパシー	ポジティブの回想的想起得点
一次性サイコパシー	1.00	
ポジティブの回想的想起	-.03	1.00

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$

Table5　SP とネガティブの回想的想起得点との相関

	二次性サイコパシー	ネガティブの回想的想起得点
二次性サイコパシー	1.00	
ネガティブの回想的想起	.07	1.00

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$

Table6　SP とポジティブの回想的想起得点との相関

	二次性サイコパシー	ポジティブの回想的想起得点
二次性サイコパシー	1.00	
ポジティブの回想的想起	-.14	1.00

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$

析を行った。その結果、一次性サイコパシーとポジティブの回想的想起得点の間に有意な相関はみられなかった（$r=-.03$、ns）。Table4 に一次性サイコパシーとポジティブの回想的想起得点との相関の結果を示した。

回想的想起得点として、ネガティブの回想回数とこの回想的経験がもつ意味の大きさの合計得点を算出した。その後、二次性サイコパシーと算出したネガティブの回想的想起得点の相関分析を行った。その結果、二次性サイコパシーとネガティブの回想的想起得点の間に有意な相関はみられなかった（$r=.07$、ns）。また、Table5 に SP とネガティブの回想的想起得点との相関の結果を示した。

回想的想起得点として、ポジティブの回想回数とこの回想的経験がもつ意味の大きさの合計得点を算出した。その後、二次性サイコパシーと算出したポジティブの回想的想起得点の相関分析を行った。その結果、二次性サイコパシーとポジティブの回想的想起得点の間に有意な相関はみられなかった（$r=-.14$、ns）。これらの結果から、仮説Ⅰは立証されないと言えた。

仮説Ⅱの検証

明確性として、ネガティブの鮮明度を表す明確性と正確さを表す明確性、感じたことを覚えているかを表す明確性、その当時に考えたことを今も覚えているかを表す明確性の合計得点を算出した。その後、一次性サイコパシーと算出したネガティブの明確性の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーとネガティブの明確性の間に負の相関がみられた（$r=-.30$、$p<.01$）。Table7 に PP とネガティブの明確性との相関の結果を示した。

Table7　PP とネガティブの明確性との相関

	一次性サイコパシー	ネガティブの明確性
一次性サイコパシー	1.00	
ネガティブの明確性	-.30 **	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$

次に、明確性として、ポジティブの鮮明度を表す明確性と正確さを表す明確性、感じたことを覚えているかを表す明確性、その当時に考えたことを今も覚えているかを表す明確性の合計得点を算出した。その後、二次性サイコパシーと算出したポジティブの明確性の相関分析を行った。その結果、二次性サイコパシーとポジティブの明確性の間に有意な相関はみられなかった（$r=.13$、ns）。Table8 に PP とポジティブの明確性との相関の結果を示した。

Table8　PP とポジティブの明確性との相関

	一次性サイコパシー	ポジティブの明確性
一次性サイコパシー	1.00	
ポジティブの明確性	.13	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$

相手の特徴に関する記述については、相手の性格や家族やその人物に関する何らかの特徴または相手の性格に関する記述が 1 箇所でもある回答を 1 とし、母や姉など家族の続柄しか書かれていない場合また性別や年齢、相手との関係性や相手の容姿に関する記述しか書かれていない場合、相手との面識がない場合を 0 とした。その後、一次性サイコパシーとデータ化したネガティブの相手の特徴の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーとネガティブの相手の特徴の間に有意な相関はみられなかった（$r=.13$、ns）。Table9 に PP とネガティブの相手の特徴との相関の結果を示した。

Table9　PP とネガティブの相手の特徴との相関

	一次性サイコパシー	ネガティブな相手の特徴
一次性サイコパシー	1.00	
ネガティブな相手の特徴	.13	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$

相手の特徴に関する記述については、相手の性格や家族やその人物に関する何らかの特徴または相手の性格に関する記述が 1 箇所でもある回答を 1 とし、母や姉など家族の続柄しか書かれていない場合また性別や年齢、相手との関係性や相手の容姿に関する記述しか書かれていない場合、相手との面識がない場合を 0 とした。その後、一次性サイコパシーとデータ化したネガティブの相手の特徴の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーとポジティブの相手の特徴の間に有意な相関はみられなかった（$r=.03$、ns）。Table10 に PP とポジティブの相手の特徴との相関の結果を示した。

以上の結果から、明確性の一次性サイコパシーのネガティブは有意であると言えたがポジティブは有意ではないことが示された。つまり、一次性サイコパシーが高いほどネガティブの明確性が高いということが考えられる。また、ネガティブな記憶に関しては有意な情報となる対象者の脆弱性を記憶することは無いが記憶の明確性の面ではネガティブな悪ふざけの一連の流れの記憶については覚えているということが考えられる。そして、一次性サイコパシーには感情や対人関係における特徴を示していることからポジティブな出来事は自分にとっても相手にとっても楽しかった、嬉しかったなどの好印象の出来事として記憶されるが、ネガティブな出来事、相手の気持ちを考えていない行為など自分にとっても場合によっては相手にとっても気持ちの良い出来事ではないことでより記憶に印象強く残っているのではないかと考えられる。しかし、悪ふざけをされた人の特徴は覚えていなかったため、仮説Ⅱは立証されないと言えた。

Table10　PP とポジティブの相手の特徴との相関

	一次性サイコパシー	ポジティブな相手の特徴
一次性サイコパシー	1.00	
ポジティブな相手の特徴	.03	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$

仮説Ⅲの検証

明確性として、ネガティブの鮮明度を表す明確性と正確さを表す明確性、感じたことを覚えているかを表す明確性、その当時に考えたことを今も覚えているかを表す明確性の合計得点を算出した。その後、二次性サイコパシーと算出したネガティブの明確性の２つの項目を HAD のソフトを用いて相関分析を行った。その結果、二次性サイコパシーとネガティブの明確性は、$r=-.10$（$p<.05$）になった。つまり、有意ではないと言えた。そして、負の相関が見られた。また、Table11 に SP とネガティブの明確性との相関の結果を示した。

明確性として、ポジティブの鮮明度を表す明確性と正確さを表す明確性、感じたことを覚えているかを表す明確性、その当時に考えたことを今も覚えているかを表す明確性の合計得点を算出した。その後、二次性サイコパシーと算出したポジティブの明確性の２つの項目を HAD のソフトを用いて相関分析を行った。その結果、二次性サイコパシーとポジティブの明確性は、$r=.05$（$p<.05$）になった。つまり、有意ではないと言えた。そして、正の相関が見られた。また、Table12 に SP とポジティブの明確性との相関の結果を示した。

Table11　SP とネガティブの明確性との相関

	二次性サイコパシー	ネガティブの明確性
二次性サイコパシー	1.00	
ネガティブの明確性	-.10	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$

Table12　SP とポジティブの明確性との相関

	二次性サイコパシー	ポジティブの明確性
二次性サイコパシー	1.00	
ポジティブの明確性	.05	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$

相手の特徴に関する記述については、相手の性格や家族やその人物に関する何らかの特徴または相手の性格に関する記述が１箇所でもある回答を１とし、母や姉など家族の続柄しか書かれていない場合また性別や年齢、相手との関係性や相手の容姿に関する記述しか書かれていない場合、相手との面識がない場合を０とした。その後、一次性サイコパシーとデータ化したネガティブの相手の特徴の相関分析を行った。その結果、二次性サイコパシーとネガティブの相手の特徴に正の相関の傾向が確認された（$r=.18$、$p<.10$）。Table13 に二次性サイコパシーとネガティブの相手の特徴との相関の結果を示した。

相手の特徴に関する記述については、相手の性格や家族やその人物に関する何らかの特徴または相手の性格に関する記述が１箇所でもある回答を１とし、母や姉など家族の続柄しか書かれていない場合また性別や年齢、相手との関係性や相手の容姿に関する記述しか書かれていない場合、相手との面識がない場合を０とした。その後、二次性サイコパシーとデータ化したネガティブの相手の特徴の相関分析を行った。その結果、二次性サイコパシーとポジティブの相手の特徴の間に有意な相関はみられなかった（$r=.10$、ns）。Table14 に SP とポジティブの相手の特徴との相関の結果を示した。

Table13　SP とネガティブの相手の特徴との相関

	二次性サイコパシー		ネガティブな相手の特徴
二次性サイコパシー	1.00		
ネガティブな相手の特徴	.18	+	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Table14　SP とポジティブの相手の特徴との相関

	二次性サイコパシー	ポジティブな相手の特徴
二次性サイコパシー	1.00	
ポジティブな相手の特徴	.10	1.00

** $p < .01$, * $p < .05$

以上の結果から、二次性サイコパシーが高いほどネガティブな記憶における相手の特徴をより覚えている傾向があるということが考えられる。また、二次性サイコパシーには、考えて行動するのではなく衝動性や行動の非制御といった特徴を示していることからポジティブな出来事の記憶の明確性が低いのは、自分にとって好印象な記憶であるため相手の情報等も含めそれほど重要性を見出していないからではないかと考えられる。しかし、ネガティブな出来事の場合は思考を伴わない衝動的な行動であることから記憶全体の明確性は低いがその分、相手の特徴といった人物情報に重要性を見出し自分では制御のできない行動の中の潜在的動作として表れているのではないかと考えられる。そして、二次性サイコパシーのネガティブの明確性とポジティブの明確性、二次性サイコパシーのポジティブの相手の特徴は立証されなかったことから仮説Ⅲは立証されないと言えた。

予備調査

予備調査では、実験で使用する、大学生における脆弱性とメリットを作成するための項目を選定することを目的とした。

方　法

調査対象者

調査対象者 23 名（男性 4 名、女性 19 名、平均年齢 21.43 歳）が予備調査に参加した。

実施日

2021 年 11 月 1 日から 2021 年 11 月 5 日中に予備調査実施した。

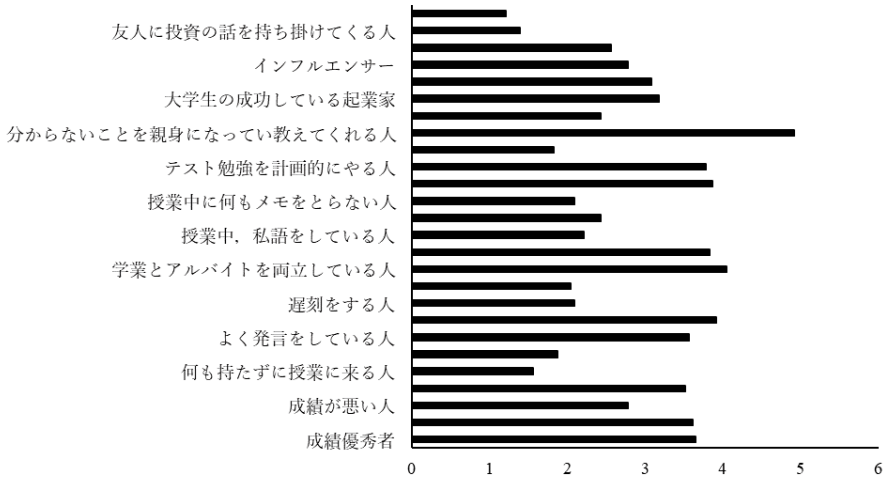
手続き

予備調査の質問項目の作成にあたっていくつかの候補を選出した。作成した 26 個の質問項目と大学生または専門学生等にとって学生生活を送る上で有用である人物への回答は Google フォームを使用して行った。また、記述以外の質問には 2 件法で回答した。その後、Excel へのデータ化を行い、本実験の質問の項目選択を行った。

結果および考察

質問項目を弁別できるものなのかを判断するために集合横棒の表の作成を行った。そして、本実験用の項目はメリットとして値が高かった順に計 8 項目、脆弱性として値が高かった順に計 8 項目を選択した。結果、26 項目中 16 項目が弁別できる項目と選択された。メリットとしては、「わからないことを親身になって教えてくれる人」「出席率が 100％の人」「予習・復習をする人」「成績優秀者」「学業とアルバイトを両立している人」「課題を早く提出する人」「テスト勉強を計画的にやる人」「ノートをきれいに取っている人」が挙げられた。脆弱性としては、「保険勧誘をする人」「授業中に何もメモを取らない人」「友人に投資の話を持ち掛けてくる人」「授業中、私語をしている人」「授業中、お菓子を食べている人」「遅刻する人」「代返する人」「成績が悪い人」が挙げられた。記述内容に関しては、学生生活との関連性が低かったため選択されなかった。予備調査で得られたデータの分類結果を Table15 に示した。

Table15　自分にとって有用である人物の項目の結果



研究２（本実験）

先行研究より、サイコパス特性が高い人は特に成功していない不幸せな人をより記憶することが示されたのである（Wilson et al, 2008）。また、サイコパス特性の高低、人格特性に関わらず全ての参加者が成功した幸せなキャラクターを認識する可能性が最も高いことが示されたのである（Wilson et al, 2008）。しかし、登場人物の名前を思い出す能力は脆弱性や職業に関わらず全体的に低下していたのである（Wilson et al, 2008）。この結果の解釈の１つとして、個人の名前はその人を騙そうとするときに最も役に立たない情報であることが挙げられているのである（Wilson et al, 2008）。その代わりに、巧妙なマニピュレーターは対人関係のスタイルを意図した被害者の個人的な興味に合わせて調整することができるが、サイコパシーに関連して経歴の詳細を思い出す能力が高まるという証拠は見つからなかったのである（Wilson et al, 2008）。したがって本実験では、予備調査の結果をもとに大学生から見た脆弱性とメリットの２つの特徴を選定し脆弱性とサイコパシー特性との関連について検討することを目的とした。具体的には、サイコパス特性が高い人は結果が出ていない恐れ顔の人物の方を有益な情報として記憶すると予測した。

方　法

実験対象者

大学生 108 名（男性 43 名、女性 65 名、平均年齢 19.33 歳）が実験に参加した。分析対象者は 105 名（男性 41 名、女性 64 名、平均年齢 19.33 歳）となった。また、実験対象者名からいい加減回答を除いた 105 名を分析対象者とした。

実施日

2021 年 12 月 9 日に実験を実施した。

手続き

本実験は、大学生を対象に PowerPoint と zoom を使用し Web 上で行い、質問項目への回答は Google フォームにて行った。実験前に、複数画面で実施できるように実験対象者に実験者から呼びかけを行った。まず、8 人分を各 30 秒ずつの計 4 分間流すためスライド画面に注目してもらうよう教示した。次に、以前見たことのある人物も含めた別の顔を見ることになると告げた上で 14 人分の

スライドを見てもらった。14 人分の表情は、The Chicago face database: A free stimulus set of faces and norming data より構成され、4 名が笑顔で 4 名が恐れの表情をしており、また、半数が男性で半数が女性であった。残り 6 つの顔は気晴らしになっていた。2 枚目のスライドショーではすべて中性的な表情の人物を無作為な順序で提示した。各人物の名前は、外国人の名前ランキング「2021 年版ニューヨーク便利帳 vol.29 掲載」より男女上位 4 名ずつ選出し使用した。また、各人物の特徴については予備調査で得られたデータより作成した。実験に使用した刺激画像を Figure1 に示した。

Figure1　実験で使用されている人物の例
（上が笑顔男性、下が恐れ顔女性）

実験対象者は調査者より調査への（1）参加は強制ではなく体調が悪くなった場合などいつでも回答を中断できること、（2）回答は全て調査者の厳重な管理もと直ちに記号化されコンピューターにより統計的分析されること、（3）個人情報が漏洩する恐れはないこと、（4）実験の結果を知りたい方には情報提供をすることを伝えたうえで任意で行われた。回答時間は約 25 分であった。実験結果をもとに相関分析を行った。

質問紙構成

画面に映った人物が、先ほど取り組んだ課題で見た人物であるか判断してくださいと教示した。その中で、もし「見た」人物であった場合はその人物について覚えていることをできる限り詳細に記述してもらうよう教示した。各画像につき回答時間は 1 分間とした。PSPS の評定後、Google フォームにて各質問項目への回答を求めた。

日本語版 PSPS：大学生の一般人口におけるサイコパシー特性を測定する尺度である。感情面の特徴を表す一次性サイコパシー（PP）尺度 14 項目（「今の世の中、とがめを受けずにすめば、成功するためにどんなことをやっても正当化できる」、「他人から搾取されるような間抜けな人は、たいていそうされてちょうど良い」など）、行動面の特徴を表す二次性サイコパシー（SP）尺度 6 項目（「長い間ひとつの目標を追求できる（逆転項目）」、「自分が始めた作業でもすぐに関心を失ってしまう」など）の計 20 項目からなる「1. 全く当てはまらない」から「4. 非常に当てはまる」の 4 件法で評定させた。

結果および考察

質問項目を相関分析にかけるために記述項目を数値化し Excel へのデータ化を行った。「見た」と回答しその人物について覚えていることを記入してもらった中から脆弱性について 1 箇所でも記述がある場合のみ得点化の対象とした。また、メリットに関しても同様の方法で得点化を行った。分析には、研究 1 と同様、HAD を用いた。

PSPS の相関

一次性サイコパシーの逆転項目も含めて 14 項目の合計得点と二次性サイコパシーの逆転項目も含めた 6 項目の合計得点を算出した。その後、それぞれ合計得点を算出した一次性サイコパシーと二次性サイコパシーの 2 つの項目を HAD のソフトを用いて相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーと二次性サイコパシーの間に有意な相関はみられなかった（r=.06、ns）。Table16 に PSPS の相関の結果を示した。

Table16　PSPS の相関

	一次性サイコパシー	二次性サイコパシー
一次性サイコパシー	1.00	
二次性サイコパシー	.06	1.00

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$

笑顔および恐れ顔の再認成績とサイコパシー特性

最初の４分間にスライドショーで流れてきた笑顔や恐れといった表情がある人物の再認課題の際に、その人物の顔を見ている場合の「見ている」が正解で１とし「見ていない」が不正解で０とした。その後、笑顔男性女性、恐れ男性女性それぞれの合計得点、顔の正答率を算出した。次に、笑顔男性女性、恐れ男性女性の算出した正答率と一次性サイコパシー、二次性サイコパシーの各項目の相関分析を行った。その結果､一次性サイコパシー、二次性サイコパシーのいずれも、笑顔および恐れ顔の再認成績と相関していなかった（Table17）。

Table17　男女笑顔、恐れと
サイコパシー特性との相関

	一次性サイコパシー	二次性サイコパシー
笑顔男性	.00	-.02
笑顔女性	-.03	-.04
恐れ男性	.12	.10
恐れ女性	-.04	-.04

** $p < .01$, * $p < .05$

真顔（ディストラクター）の再認成績とサイコパシー特性

再認課題の際にスライドショーで流れてきた中性的な表情の人物像であるディストラクターを見ていない場合の「見た」が不正解で０とし「見ていない」が正解で１とした。その後、ディストラクターの真顔男性女性それぞれの合計得点、顔の正答率を算出した。次に、真顔男性女性の算出した正答率と一次性サイコパシー、二次性サイコパシーの各項目の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシー、二次性サイコパシーのいずれも、真顔の再認成績と相関していなかった（Table18）。

Table18　ディストラクターと
サイコパシー特性との相関

	一次性サイコパシー	二次性サイコパシー
真顔男性	-.02	.08
真顔女性	-.05	-.05

** $p < .01$, * $p < .05$

脆弱性とサイコパシー特性

「見た」という質問回答の中で、相手の特徴を記述する際にデメリットである脆弱性について１つでも記述がある場合を１とし、メリットのみあるいは他の人の脆弱性を記述している場合などは０とした。その後、得点化した脆弱性と笑顔男性女性と恐れ男性女性それぞれの合計得点を算出した。次に、笑顔男性女性、恐れ男性女性の得点化した脆弱性とサイコパシー特性の各項目の相関分析を行った。

その結果、一次性サイコパシーと笑顔男性の脆弱性、笑顔女性および恐れ女性の脆弱性の間に、有意な相関はみられなかった。一方、一次性サイコパシーと恐れ男性脆弱性の間には、負の相関がみられた（$r = -21$、$p<.05$）。

それに対し、二次性サイコパシーと笑顔および恐れ顔の男女の脆弱性の間には相関はみられなかった。Table19 に脆弱性とサイコパシー特性との相関の結果を示した。

以上の結果から、一次性サイコパシーが高いほど相手の脆弱性の記憶における恐れ男性をより覚えている傾向があるということが考えられる。

Table19　脆弱性とサイコパシー特性との相関

	一次性サイコパシー	二次性サイコパシー
笑顔男性脆弱性	-.11	-.07
笑顔女性脆弱性	-.02	.01
恐れ男性脆弱性	-.21 *	-.12
恐れ女性脆弱性	-.07	-.15

** $p < .01$, * $p < .05$

メリットとサイコパシー特性

「見た」という質問回答の中で、相手の特徴を記述する際にメリットについて１つでも記述がある場合を１とし、デメリット、脆弱性のみあるいは他の人のメリットを記述している場合などは０とした。その後、得点化したメリットと笑顔男性女性と恐れ男性女性それぞれの合計得点を算出した。次に、笑顔男性女性、恐れ男性女性の得点化したメリットとサイコパシー特性の各項目の相関分析を行った。その結果、一次性サイコパシーと笑顔男性のメリット、笑顔女性および恐れ女性のメリットの間に、有意な相関はみられなかった。一方、一次性サイコパシーと恐れ男性のメリットの間には、負の相関の傾向がみられた（$r=.17$、$p<.10$）。それに対し、二次性サイコパシーと各表情の人物のメリットの間には相関はみられなかった。Table20 に脆弱性とサイコパシー特性との相

関の結果を示した。

以上の結果から、一次性サイコパシーが高いほど相手のメリットの記憶における恐れ男性をより覚えている傾向があるということが考えられる。

Table20　メリットとサイコパシー特性との相関

	一次性サイコパシー	二次性サイコパシー
笑顔男性メリット	-.16	-.08
笑顔女性メリット	.01	.13
恐れ男性メリット	-.17 $^{+}$	-.14
恐れ女性メリット	.12	-.01

$^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$, $^{+}p < .10$

仮説の検証

一次性サイコパシーと恐れ男性脆弱性は有意であったが、その他の一次性サイコパシーと恐れ女性脆弱性も二次性サイコパシーと恐れ男性脆弱性また恐れ女性脆弱性ともに有意ではなかったことから仮説は立証されないと言えた。また、Table19、20から一次性サイコパシーの中でも脆弱性やメリットに関わらず特に恐れ男性の情報に関する記憶力が良い傾向があるということが考えられる。

総合考察

本調査では、サイコパシー特性が自伝的記憶にどんな影響を与えているのかについて検討することを目的とした。回想的想起は、Table3、4、5、6からPP、SPまたポジティブ、ネガティブに関わらず共通して出来事に対する意味を見出すことが難しいのではないかと考えられる。PPと記憶の明確性については、Table7、8、9、10から悪ふざけの中でもネガティブな気分になった経験に関しての記憶は時間が経過しても一連の流れの保持が十分にできるが相手が喜ぶような結果になった行為などポジティブな気分になった経験は記憶保持が難しいのではないかと考えられる。つまり、自分自身にとって良かったと思える出来事に関しては時間の経過とともに記憶力が低下する恐れがあるが、良くない結果を招いた出来事や気分が損なわれた出来事等に関しては時間が経過しても記憶力が低下することなく鮮明な状態で保持できるのではないかと考えられる。また、相手の有意な情報となる脆弱性を記憶することはないがそれでもネガティブな出来事に関しては一連の流れの記憶の明確性が高いことから悪ふざけの相手に関する何らかの情報をもった状態で行動を起こしている可能性があるのではないかと考えられる。さらに、相手の特徴といった人物に関する詳細情報に関して一次性サイコパシーが高い人には、ネガティブなことであってもそれほどネガティブなこととして捉えられていないためよく覚えていないのではないかと考えられる。SPと記憶の明確性については、Table11、12、13、14から衝動的な行動のうちポジティブな悪ふざけといった経験については相手の特徴もその出来事に対する記憶の明確性も低く時間の経過と共に記憶力が低下し保持し続けることが難しいのではないかと考えられる。ネガティブな悪ふざけといった経験については、相手の特徴などの情報を記憶し時間の経過に関わらず保持が可能であるのではないかと考えられる。

本実験では予備調査の結果をもとにGoogleフォームを作成し脆弱性とサイコパシー特性との関連について検討することを目的とした。Table17、18、19、20から相手の情報を記憶する際に笑顔の人物は幸せであると認識され記憶に残りにくいのではないかと考えられる。また、サイコパス特性の中でも共感性や罪悪感の欠如また他者操作などの感情や対人関係における特徴を示している一次性サイコパシーについては、恐れ男性脆弱性と恐れ男性メリットの両方で有意性が見られたことから例えば、詐欺等の犯罪行為など相手にとって害をなす行為など他者操作をする面で相手の脆弱性のみに関わらずメリットも相手との関係性の構築や会話の中で大きな役割を果たしているのではないかと考えられる。また、その影響を特に相手が恐れ男性の場合に現れる傾向があるのではないかと考えられる。ただ、衝動性や行動の非制御などの行動における特徴を示している二次性サイコパシーに関しては男性女性どちらも笑顔と恐れの表情ありの場合でもディストラクターの場合でも脆弱性の場合でも有意ではなかったことから衝動的な行動である場合は相手の脆弱性といった弱みになる情報の価値は低い傾向にあるのではないかと考えられる。

これらの調査結果と実験結果を比較して、一次

性サイコパシーに関しては、ネガティブ出来事についてのみ記憶力の明確性の面で有意性が見られたことや恐れ男性脆弱性の面で有意性が見られたことから予め準備や情報収集が可能な場合には相手の脆弱性といった部分を他者操作の中で利用している可能性があるのではないかと考えられる。二次性サイコパシーに関しては、全体を通してみるとポジティブな悪ふざけといった経験については出来事の明確性も相手の特徴の記憶力に有意性は見られずかつ本研究結果の方でも男性女性どちらも全ての分析の中で1箇所も有意性が見られなかったことから衝動性が強い行為では相手の脆弱性はとくに意味を持たないのではないかと考えられる。また、出来事の明確性といった部分でも感情の抑制が利かないなど考えて行動しているわけでなないことから記憶力の欠如につながっているのではないかと考えられる。

今後の扱うテーマに関しては、サイコパス特性とネガティブなことに関する先行研究が多いためポジティブな経験との関連性について内容を掘り下げていくことで発展的な研究につながり新たな知見が得られるのではないかと考えられる。

今後の課題としては、犯罪者予備軍や刑務所に収容されている人たちと健常者との違いや大学生や20代から40代以外の年齢層にも幅を広げてみること、同数で設定した男女差を見ること、生育環境の差異をみるなど多角的な視点から検討していく必要があるのではないかと考えられる。

引用文献

2021年版ニューヨーク便利帳 vol.29 掲載（2021）．「【2021年最新版】アメリカンネーム人気ランキング発表！アメリカで人気の名前は？」ニューヨーク便利帳．〈【2021年最新版】アメリカンネーム人気ランキング発表！アメリカで人気の名前は？｜ニューヨーク便利帳（ny-benricho.com）〉（閲覧日：2021年12月3日）

Wilson, K., Demetrioff, S., & Porter, S.（2008）．A pawn by any other name? Social information processing as a function of psychopathic traits. *Journal of Research in Personality, 42*（6），1651–1656.

Ma, Correll, & Wittenbrink.（2015）．The Chicago Face Database: A Free Stimulus Set of Faces and Norming Data. *Behavior Research Methods, 47*, 1122-1135.

宮田 千聖・湯川 進太郎（2014）．サイコパシー特性と自伝的記憶　犯罪心理学研究, *51*（2），1–10.

大庭 丈幸・西松 能子・大平 英樹（2013）．サイコパシー特性と多次元的共感性　人間環境学研究，*11*（1），p16.

清水 裕士（2016）．フリーの統計分析ソフトHAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案　メディア・情報・コミュニケーション研究，*1*，59-73.

Tiziana, L., Anotonietta, C., & Pierpaolo, B.（2019）．Do psychopathic traits impair autobiographical memory for emotional life experiences? *Memory, 27*（5），660–672.